

ネスレ日本と伊藤園、持続可能な物流連携に向けて、 静岡～千葉間の共同輸送と静岡～関西間のラウンド輸送を 2026年4月より開始

ネスレ日本株式会社(代表取締役社長兼 CEO: 深谷 龍彦 本社: 兵庫県神戸市、以下「ネスレ日本」と)と株式会社伊藤園(代表取締役社長: 本庄 大介 本社: 東京都渋谷区、以下「伊藤園」)は、物流効率化と環境負荷低減に向けた取組みとして、静岡～千葉間における共同輸送および静岡～関西間におけるラウンド輸送(※)を、2026年4月より開始しました。

(※)トラックが荷物を届けた後の復路で別の荷物を運ぶことで空荷走行を減らし、車両の稼働効率を高める「循環型」の輸送方法のこと。



(左)静岡～千葉間の共同輸送の様子、(右)静岡～関西間の「ラウンド」輸送の様子

昨今、トラックドライバーの人手不足や物流における環境負荷低減への対応など、物流を取り巻く社会課題が顕在化しています。ネスレ日本と伊藤園は、こうした課題の解決に向けて、両社の物流特性を活かした共同輸送の検討を進めてきました。

2026年4月から開始した今回の取組みでは、静岡～千葉間においてネスレ日本の飲料製品を1段積みした際の上部空きスペースに軽量貨物である伊藤園のリーフ製品を積載することで、荷台の容積を隙間なく有効活用した重軽混載による共同輸送を実施します。また、静岡～関西間において往路にネスレ日本の飲料製品、復路に伊藤園の茶製品に使用する原料茶葉を運ぶラウンド輸送を行います。本取組みにより、両社が個別に製品を輸送していた従来の方法に比べて積載率が向上し、トラックの使用台数および二酸化炭素(CO₂)排出量の削減が期待されます。

ネスレ日本と伊藤園は、環境負荷の低減を通じて持続可能な社会を実現するため、今後も業界や業種を横断した物流連携を推進し、お客様に安全・安心な製品を持続的にお届けできるサプライチェーンの構築に取り組んでいきます。

■静岡～千葉間における共同輸送のスキームについて

ネスレ日本と伊藤園は従来、静岡～千葉間でそれぞれ製品を同一の倉庫へ個別に輸送していました。今後、ネスレ日本の飲料製品「ネスカフェ ポトルコーヒー」を伊藤園の倉庫に集約し、軽量貨物である伊藤園のリーフ製品「さらさらとける お～いお茶 抹茶入り緑茶」などの重軽混載により、静岡～千葉間で共同輸送を実施し、千葉県内の倉庫へと届けます。これにより、積載効率が向上するとともに、二酸化炭素(CO₂)排出量の削減につながります。

運用開始日: 2026年4月6日(月)

運用頻度: 週1回(片道)

静岡～千葉における共同輸送

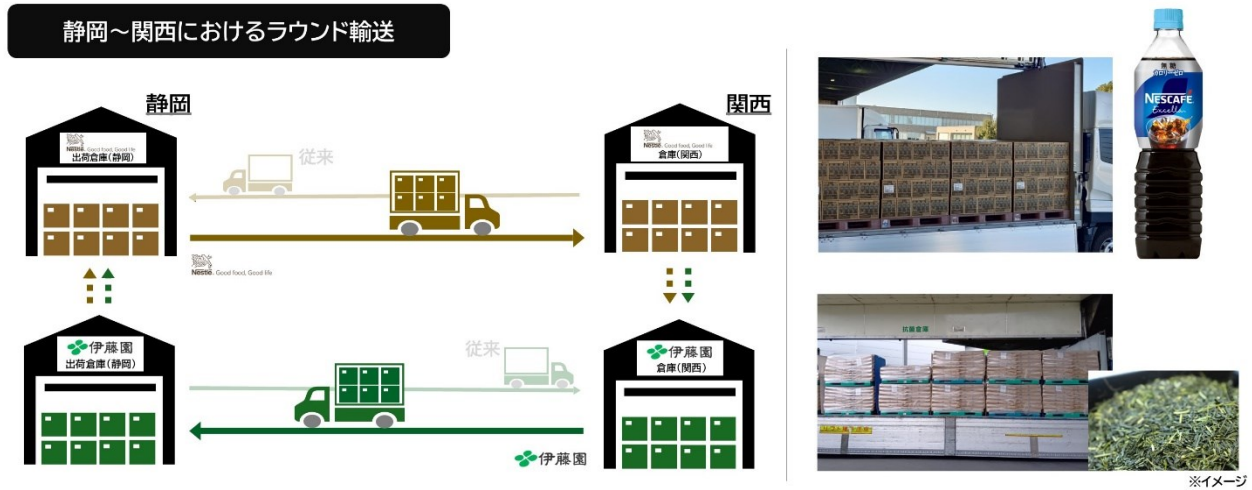


■静岡～関西間におけるラウンド輸送のスキームについて

往路にネスレ日本 島田工場(静岡県島田市)の出荷倉庫から関西の物流拠点(兵庫県西宮市)へ飲料製品「ネスカフェ ボトルコーヒー」を輸送し、復路に伊藤園の物流倉庫(兵庫県神戸市)から伊藤園 静岡工場(静岡県牧之原市)へ「お～いお茶」などに使用する原料茶葉を輸送するラウンド輸送」を実施します。これまで空車で運行していた区間を共同輸送として活用することで、トラック 1 台あたりの稼働効率を高め、二酸化炭素(CO₂)排出量の削減につながります。

運用開始日: 2026年4月7日(火)

運用頻度: 週1回(往復)



以上

参考資料

■ネスレ日本について

ネスレ日本は、スイスに本社を置く世界最大の総合食品飲料企業ネスレの日本法人で、1913年(大正2年)に創業しました。ネスレは、「食と飲料の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます」を存在意義(パーパス)として掲げ、安全で、美味しく、環境にも配慮された製品やサービスを皆さまにお届けできるよう、今後も努めていきます。

ネスレ日本について: <https://www.nestle.co.jp/>

■伊藤園について

伊藤園グループは、グループ経営理念「お客様第一主義」のもと、「お客様の健康で豊かな生活と持続可能な社会を実現すること」を社会における使命として、「日本」のお茶が持つおいしさや価値を幅広い世代のお客様に提供しています。今後も、長期ビジョン「世界のティーカンパニー」の実現に向けて、日本を代表するブランドとして「お～いお茶」を世界に広め、伊藤園グループの技術とバリューチェーンにより世界規模で新たな茶文化と茶市場の創造に取り組めます。

伊藤園について: <https://www.itoen.jp/>